

明日 への 話題

経営者は 忍術使いに



岩井コスモ証券
取締役社長

おきつ 沖津
よしあき 嘉昭

資本市場の発展のため、証券会社は重要な役割を担っている。それ故、証券会社は絶えず健全な会社運営を行ってその責務を全うする義務がある。

バブル崩壊後、その証券会社を取り巻く環境は、橋本内閣の証券ビッグバンや電子取引の出現で、それまでとは違うまさにコベルニクスの転回のような激変に見舞われた。手数料の完全自由化、免許制から登録制への移行等、そしてインターネット取引の出現である。平成不況と相俟って、この制度改革の下での業務展開に限界を感じて自主廃業する会社や、倒産または統廃合される会社が続出。証券会社は前述のような責務を全うするため、金太郎飴的体質を改め、夫々が独自の顔を持つ会社への変貌を求められた。

関西を基盤とする当社のケースを例にとると、コスモ証券と合併する前の岩井証券では、全員参加型経営という経営理念の下、ガラス張り経営を推進。これを具現するため社内の全部門毎に各勘定科目別に数字を纏め、これを「月間部店別損益計算書」として全社員に公表。また、最高意思決定のプロセスをオープンにするため「取締役会社員傍聴制度」を創設。更には人事考課に「自己採点制度」を取り入れた。こうして全員参加型経営を推進するとともに、収益の拡大に向け、手数料の自由化を逆手に取り、米国のディスカウントブローカー方式を日本流にアレンジした「コールセンター取引」や、未だこれが生成期の頃から「ネット取引」を開始。これらがITバブル相場に乗って好業績をもたらし、平成18年に東証一部に直接上場を果たした。しかし、上場後数年で、リーマンショックが発生。証券界は再び冬の時代に。対応策はコストダウン以外には無い状態。しかしそれは既に限界まで実行済み。再び何らかの手立てが必要になった。

そこで小社はコスモ証券を買収し、両社の合併によるコストシナジーを發揮させる方策を考え、これを実現。この買収・合併により年換算で42億円のコストダウンに成功し、リーマンショック後の不況を乗り切った。そしてアベノミクス相場が到来。

しかし昨今の証券市場環境をみると、再び新たな会社の変革が必要な気がする。再び何らかの忍術が必要のようだ。資本市場の担い手の一翼を果たすため、証券会社には絶えず会社を変革する努力が求められている。代表者は絶えず「忍術使い」で有らねばならない。